

NPO 法人 やまぼうし自然学校

ニュースレター

2013年度 春号

震災から二年。被災地の日も早い復興を祈りながら、一緒に、これからの生き方、暮らし方を見つめていきましょう。



吹えるところ、どこでも吹っちゃえ!

代表理事よりご挨拶**



加々美貴代 (がみちゃん)

プロジェクト名「森でつながるいのちのわ〜森で遊んで、使って保全〜」。7月1日開始の木材利用ポイント事業、ご存知ですか?地域の木材の適切利用で、健全な森作り、地球温暖化防止や再生可能資源としての森林機能の強化、林業が活性化することで農山漁村地域の振興を目的としています。木材利用ポイントで地域の農産物等と交換したり、森林づくり・木づかい活動に寄附ができます。やまぼうし自然学校も寄附対象団体に選ばれました。地域の子どもたち(森でモリモリ遊び隊、森あちょびクラブ)の環境教育に活用をします。多くの皆さまの応援をお待ちしております。一緒に森で学び、遊び、使って、未来へのタネをまきましょ。

発行：特定非営利活動法人 やまぼうし自然学校
住所：〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1223-5751
TEL：0268-74-2735 FAX：0268-74-2795
Email：info@yamaboushi.org URL：http://yamaboushi.org

スタッフよりひとこと



瑞慶覧 明子(すけちゃん) この秋、新潟に越すことになった。信州にいられるのもあと3ヶ月。だけど、気持ちは今までと(ほとんど)変わらない。夏本番を楽しみに、仕事と生活を楽しむ毎日。大好きな街と仲間、友だち。笑顔交わす人がいる、大切な、大切な場所。ワクワクが止まらない夏、スタート!



保母 裕美(ほぼちゃん) 非常勤から平日常勤になって、3か月。事務所内のいろいろが見えてきました。やまぼうしでも人並みの勤務時間をと、休日取得を促してきましたが繁忙期はそうもいかず・・・コミュニケーションとやりがいと気遣い。この夏も頑張ります!



吉岡 明美(けみちゃん) ついこの間まで真っ裸だった木々に、緑の葉っぱが生い茂っている。つい最近カッコウが鳴いたと思ったら、もう春ゼミが鳴いている。夏の訪れはあつという間だ。子ども達と一緒に、とっておきの夏の思い出を作りたい。



長谷川 功(はせじい) 7年ぶりに高校のクラス会に出席した。卒後46年。参加者2割。鬼籍に入った方、連絡取れない方2割、6割は自己都合、仕事の都合、他の仲間とのつきあい、体調不良など…。遠慮のいらぬ仲間と痛飲。最近のことは忘れても思い出は鮮明。いつまでも参加出来るようでありたい。



古川 誠(じゃが) テレビを一切見なくなった。見る時間がないというのも半分正解だけど、半分は不正解。時間が自分の元に戻ってきたような、そんな感覚が。家にいる時間は断然短いけど、自分の時間は増えた。自分の時間も大切に。でもまだまだ全力投球!!



佐藤 美央(みろりん) なるべくなら、「忙しい」と言いたくない。どんなに忙しくても「心を亡くしたく」はないから。いつでも、心で感じ、まわりの人や自然に感動していきたい。



後藤 かおり(ごっちゃん) 「太郎山の頂上から眺める、根子岳と四阿山」。菅平で出会った、私のお気に入り、第一号だ。ちょっとずつお気に入りを増やしていきたいな。みなさんのお気に入りも、ぜひ教えてください。景色でも生物でも食べ物でも何でも歓迎です。



石川 順子(じゅんこさん) この春も見事に満開だった、近所のヒメリンゴ。緑が濃くなり実が膨らみ始めたこの時期、10輪ほどの花が! 過去にはなかったような・・・いや、見逃していただけか。「遅れ咲き」の要因とは? 自然の不思議を探る楽しみがまたひとつ。



仲川 好乃(よっちゃん) スプリングエフェメラルに会いに、ちょっと遠出しましたそこは、ニリンソウの大群落それだけでも感動・感激なのになんと緑のニリンソウにも・・・その後、都内のイベントで太陽の周りに虹(環天頂アーク)も発見今年度もいいこといっぱい予感 \ (o^)/

3・4・5月の実施事業

■事務局

林政審議会（3月8日、4月26日）、森に学ぶネットワーク（3月9日、10日）、志生塾（3月11日）、ESDミーティング（3月13日）、上高地開山祭（4月27日）、やまぼうし自然学校理事会（5月4日）、インタープリター研修会（5月13日、20日）、インタープリター登山研修（5月17日）、CONE 総会（5月28日）、神奈川シニア自然大学校総会（5月31日）※東京支部の飯河正さん、神奈川シニア理事会、総会を経て神奈川シニア大学校/校長就任

■体験学習

上田養護学校・デイキャンプ（3月8日）、横浜デザイン学院（4月11日）、我孫子二階堂高（4月18日、19日）、柏市立柏高（4月24日）、葛飾区立中学校実地踏査（5月9日）、品川区立中学校実地踏査（5月9日、10日）、むさしの学園小（5月14日-16日）、東京国際学園高等部（5月15日）、伊那市立東部中（5月15日）、学芸大附属竹早中（5月15日）、専修大学連合県人会（5月19日）、武蔵野東小（5月21日、23日）、流山市立西初石中（5月23日、24日）、日本女子大学附属豊明小（5月23日）、伊奈町立伊奈中（5月24日）、柏市立柏五中（5月27日）、流山市立北部中（5月27日-29日）、太田市立荊川西小（5月28日、29日）、鴻巣市立鴻巣中（5月29日-31日）、明治大学付属明治中（5月29日-31日）、品川区立八潮学園（5月29日、30日）、我孫子市立湖北台中（5月29日、30日）、我孫子市立久寺家中（5月29日）、学校法人松本昭和学園エクセラ高（5月29日）、青山学院中等部（5月30日）

■森でモリモリ遊び隊/フォレストキッズ

雪遊び（3月10日 遊び隊）、説明会（4月25日 遊び隊）、アイスブレイク&春の森遊び（5月19日 遊び隊）、（3月16日、5月25日 フォレストキッズ）

■イベント

手前味噌づくり（3月3日）、冬のいつでもガイド（3月16日）、森あちょびクラブ（3月17日、5月19日）、スキーピクニック（3月17日）、ジビエ料理（3月20日）、チーム腹時計（4月8日、5月10日）、春の親子デイキャンプ（4月27日）、大人のキャンプ（5月3日-6日）

■講座

森を楽しむ講座ガイダンス（3月2日、4日 東京）、森を楽しむ講座・チャレンジコース（3月30日、31日、4月20日、21日、5月18日、19日 東京）、森を楽しむ講座・森めぐりコース（4月11日、5月16日）、埼玉シニア自然大学（3月9日）、神奈川シニア自然大学（3月10日、4月16日、17日、23日、24日、5月7日、8日、9日、21日、30日 東京）、彩の国シニア自然大学（4月10日、24日、5月22日 東京）、インタープリター養成講座（4月24日、28日）

■委託

筑波大学メンタルウェルネスプログラム（3月1日、2日）、スノーボール審判（3月3日）、黒川青少年野外活動センターネイチャーボランティア（3月3日、5月11日 東京）、SAN フェスタ（3月4日、5日）、スノーキャンプ in 信州（3月27日~30日）、つなげようとどけようコンサート・クラフト体験（3月31日）、プラザノース春まつり・森のすごろくづくり（4月20日、21日）、国際自然大学校・社内女性研修会（4月22日 東京）、みどりフェスタ（4月29日 東京）、別所温泉上松屋クラフト体験（5月3日、4日）、ワンパク大学日美合宿（5月8-10日）、安藤百福自然体験活動センター・キラキラハイキング（5月11日、12日）、リラクオーレマルシェ（5月12日）、チーム95 研修会（5月18日）、上田市教育委員会・地域青少年育成指導者養成講座（5月18日）、別所線と走ろう・クラフト体験（5月25日）、高岡トラベル（5月26日）、上田市立丸子北中コスモス大学（5月30日）

これな〜んだ！

日々の仕事、ふとしたときに“お！”という表情や発見に出会います。そんな時は、シャッターチャンス！さて、なんでしょう？



A



B



C



D

イベント情報（主催）

やまぼうし自然学校の会員の方は・・・

- ◆長野本校イベント 参加費 10%割引
- ◆首都圏イベント 参加費 10%割引！さらに、3回参加で次回50%割引

♪チーム腹時計♪

力仕事したい！薪割りしたい！あるいは、やまぼうし自然学校ってどんなことしてるの？という方向けの企画です。やまぼうし自然学校には、年間いろいろな外仕事と手仕事があります。地域の方々の力を借りて、パワー全開で作業するのが『チーム腹時計』。合言葉は、『月一回、お腹がすくまで作業して、お腹がすいたら釜の飯』

毎回、昼食に薪で炊いた白飯をご用意します。汁物つきです。

日時 8月10日（土）9時～13時
場所 菅平高原 やまぼうし事務所周辺
対象 どなたでも！
内容 薪作りなど予定
参加費 無料！

長野校

※9月以降も実施します。日が変わる可能性もありますので、ホームページを確認いただくか、事務所へ確認ください。

♪高尾山自然観察会♪

初夏の高尾山を地元森林インストラクターがご案内します。薬王院の精進料理を堪能し、高尾山の歴史や史跡にも触れてみましょう。

日時 7月20日（土） 10:00-14:30
集合 高尾山ケーブルカー霞台駅改札前
参加費 5500円
定員 20名（先着順）
締切 7月17日（水）

東京支部

♪黒目川上流・さいかち窪自然観察会♪

昨年5月の落合川南沢湧水群に続くく東久留米再発見>シリーズ第二弾。黒目川源流といわれる痕跡を残す小平霊園内の「さいかち窪」や黒目川上流の保存林、屋敷林を訪ねます。

日時 11月9日（土）9:30-14:30
集合 西武新宿線/小平駅
参加費 未定
定員 25名（先着順）
締切 11月2日（土）

東京支部

夏だ！キャンプだ！自然体験だ！

♪やまぼうし原人キャンプ♪

むかしむかし、菅平高原には、森のめぐみに感謝しながらひっそり暮らす菅平原人がいたという。そんなご先祖の森で五感を研ぎ澄まし、大地を踏みしめる4日間。森探検、沢のぼり、豪快原人焚き火料理、原人風呂などなどなど。最後の夜には「原人祭り」を復活させよう。ちょっと不便なキャンプ生活も、菅平原人の知恵でとびっきりの思い出になっちゃおうよ！

日程 8月10日（土）～13日（火）
宿泊 テント3泊
集合・解散場所 菅平高原または池袋駅
募集 30名（最少催行10名）
対象 小学1年生～6年生、中学生
参加費 30,000円（食事、宿泊、指導、資材、保険込）
※池袋からご参加の方は、別途交通費3,000円（小学生）、6000円（中学生）程度が必要です
申込締切 7月31日（水）

長野本校

♪夏のいつでもガイド♪

8月から「いつでもガイド」始めます！夏休み、平日週末いつでも！（スタッフが空いてさえいれば！）、ゆったり森歩きやネイチャークラフト体験に出掛けませんか？

日時 8月 9時～11時 / 13時～15時
集合 やまぼうし自然学校 事務所
対象 5歳以上の親子、大人
参加費 ひとり2,000円
要予約 2日前までにご予約ください
出掛ける場所 森歩きは、根子岳のふもとのシラカバ、ミズナラの涼しい森へ。途中沢も渡ります（橋あり）。ネイチャークラフトは、事務所ですっきり丁寧に指導します



『キッズコマチ2013』（株式会社長野こまち）に掲載されました！長野県内の楽しい自然体験情報盛りだくさん！（やまぼうし自然学校は29ページ）

心が通う体験学習

5月、4泊5日の修学旅行でやってきたむさしの学園。初日の根子岳登山から始まり、山菜摘みやクラフト、ピザ作りなど、丸3日間の体験学習をやまぼうしで受け入れた。私自身も1日目の「ようこそ」から最終日の「さようなら」まで数日にわたって密着したのはこの学校が初めて。緊張しながらも、普段の学園生活でも週に一度、授業の一環として森遊びをしているという子供たちに見えるのは楽しみだった。

ニコニコ笑顔がステキな4人の先生に伴われてやってきたのは42名の元気な小学生。一見普通の小学生なのに、数時間一緒にいるだけでその素敵な片鱗がちらほら至るところに顔を出す。登山中に飛び交う「落(らく)！」の声。みんなで口々に落石や浮石の注意を促し、「焦らずにゆっくりでいいよ！もうちょっとだよ！」と励ましあう。

翌日のウッドクラフトでも、限りある資材を工夫してみんなで使う。個性がキラキラ光る彼らは、物作りには全員が意欲的に取り組み、創意工夫はお手の物。時間が全然足りないくらいアイデアが生まれ、出来上がった作品の素晴らしいこと！1つとして同じものはなく、すべて自分たちの力で生み出したアート作品。ほー！へー！！と感動しながら1つ1つ写真におさめた。3日目のピザ作り。すっかり打ち解けた彼らは、私が困っていると小さな手を差しだし、悩んでいると満点の笑顔でモヤモヤを吹き飛ばしてくれた。「考えすぎもダメだよ」そんなことをしてくれる子もいた。



こんなに小さな体のどこにそんなに人を思いやる強さを秘めているんだろう。なんでこんなに素敵な子供たちが集まっているんだろう。活動中何度も心と手を止めて子供たちを見つめていると、同じように温かい視線を生徒にむける校長先生が。そう、校長先生をはじめ、先生方がすごく自然体であたたかい。同じ目線で生徒と一緒に楽しみ一緒に考える。時には見守り、時には叱る。みんながありのままの姿でいられる心地よい空間を、この先生方が作り出していた。

新しいキャンプネームをつけてもらうほど仲良くなったお別れの時。離れがたい気持ちをグッとこらえ、バスを見送った。この3日間、私はただ楽しんでた。彼らにたくさん助けられ、何度も感謝した。一緒に美味しいものを食べ、一緒に感動した。隣に寄り添い彼らの力を信じていた。



そしてふと、大切なことに気づく。ただ「指導する」のではなく、今回のように気持ちのやりとりができる関係を子供たちと築いていきたい。中には数時間の関わりしか持てない子もいる。けれど、今回私が彼らに助けられたように、少しの声かけで人の気持ちは大きくかわるもの。「菅平って、なんか楽しかった」とチラッとでも思ってもらえるような言葉を、気持ちを、投げかけていきたい。

やまぼうしに来て早半年。この学園に出会って新しいステップを踏み出すことができた気がする。のろのろとしか進めないけれど、まわりのスピードに流されず一歩一歩を大切にしていきたい。



佐藤 美央

ネットワークに人あり楽あり！

この6月、「信州外遊びネットワーク」が立ち上がった。白馬村で行われた信州フェスタをきっかけに集まった外遊び好きなメンバーが、子どもたちが自然に外遊びを楽しめるような仕組み作りを考えよう！楽しいこといっぱいやろう！信州はこんな外遊びができるよ！を発信して、全国に外遊びを広めようというのが狙いだ。

ネットワークの存在感は、人間の存在感そのもの。今、これを実感している。

『自分たちが楽しんでいるところに人が集まってくるのが、理想的な人の流れ。そうでないところ人が集まってくるとすれば、それは何か別の動きによるもの。』キーパーソンの言葉にみまうなずき、同時に自分はどうか？と問い始める。ネットワークは、“わが振り直す”きっかけになるところだと思う。自分がちゃんと楽しんでないと、ネットワークの熱は上昇しない。

私がもうひとつ、知って面白いと思うのは、遊びをつくりだすプロセスだ。なんの遊び？どうやって遊ぶ？の背景に、だれと？どのよう？のプロセスがある。そこに、楽しみを演出する醍醐味がある。多様な外遊びには、その人人の多様な生き方が表れる。遊びが楽しいのは当たり前。その楽しみが広がり日常化するには、人の生き方、考え方に触れるチャンスを増やすこともかもしれない。



モンテッソーリオフトウキョウの子どもたち12人が、菅平にキャンプにやってきた。

6月27日夜。3泊4日キャンプの3日目。引率のJamesと子どもたちと、星空をみようとしてダボスの丘を登った。大きなブルーシートを広げ、全員寝転がる。わずか見えた星はみるみる雲に隠れ、雨がポツリと落ちてきた。

“Let's play silent game.”（静けさを楽しもう。）Jamesが切り出す。

「何も聞こえないだろう？このシーンという“音”、みんなに味わってほしいんだ。東京では、なかなかこうはいかないよ。」静けさに耐えられなくて、咳をしたりひそひそ話す子どもたち。寒さを訴える子には、自分の隣に来るように言い、そっと肩を抱く。

“暗闇に目を凝らすと、見えないものが見えてくるんだ。”穏やかな口調で語りかけるJamesは、絶対に帰ろうと言わない。「どうしても帰りたい人、自分の名前を言って。」5人名乗りを上げる。「OK、全員じゃないな。あと5分待ってみよう。」

「雲が晴れるかどうかなんて、だれにも分からない。でも、待つしてみる価値はあるよ。僕はいつもそう信じてきた。ほら、雲が動いてるの、分かるだろう？」1時間経過。見事、空が晴れた。流れ星に歓声があがり、爆発したような星の姿に興奮の声。Jamesが見せてくれた空だった。

自分がいて、他者がいる。誰かがいるおかげで、なんだか楽しい自分と暮らし。そんな関係がいつも、いつまでも楽しむひとたちがいる場所では確実に、豊かで楽しい暮らしの極意が引き継がれていく。多様な極意を発信するネットワークにしたい。



瑞慶覧 明子

これな〜んだ！の答え



A

バナナの上にトッピングしたマシュマロとチョコ。アルミに包んで火に投入したらとろ〜りあま〜いデザートに。



B

朝陽に照らされたいもむしの家が、子ども達のキャンプの家に居候！



C

木のろうそく。丸太の切り込みの奥で火をつけるとじわじわ燃える。闇夜がロマンチックに灯る。



D

炭焼き後に浮かび上がる鼻と口。空気の違い込み口がよく分かる！

フォレストキッズ



3月16日 1年間のまとめ風作り&凧上げそしてそれぞれの遊びに
5月25日 初めて会った子どもたち、力を合わせ助け合い全員木登りに成功。自然界のたくさんの色を見つけました。



おしり滑りで 絶叫



凧づくり



風を捉えて天まで上げ



気になる木発見柔らかいこの物体は???



森の色探し



木の上でもこの余裕

森でモリモリ遊び隊



『主役はきみたち、ひとりひとり。自分も、みんなも、たのしくなる工夫をしよう』

2013年度の森でモリモリ遊び隊を始めるにあたって掲げた、子ども達に大切にしてほしいこと。今の子ども達は、与えられることに慣れすぎていることがとても多い。テレビゲームやおもちゃなど、遊び方が決められてしまっているものに囲まれていることに加え、便利な機械が増えたことにより、家庭や学校内で仕事をする機会も減っている。

森でモリモリ遊び隊の最大の特徴は、大人が遊びを与えるのではなく、子ども達の中から生まれた遊びや発見に大人が寄り添い共感することである。主役はあくまで、子ども達。遊びだけでなく、ご飯作りや後片付けなども、子ども達が主体となって行う。それにより子ども達が自分で考える力を育み、楽しさや面白さを自ら生み出す喜びを引き出す。なにより、その喜びを分かち合える仲間がいて初めて、本当の楽しさが生まれることを子ども達に感じてほしい。そんな想いで、この言葉を掲げた。



『川遊び大好き！みんなでダムづくり』

森には、子ども達が本来持っている感性の豊かさや生きる力を育む、たくさんの不思議が詰まっている。「先生」はあくまで私たちスタッフではなく、自然。仲間と共に笑い合い、野山を駆け回り、時には失敗もする・・・子ども時代のそんな経験が、その後の成長の中で出会う困難を乗り越え、大切な人を守る大きな力の源になることを願って、これからの活動を引き継いでいきたい。

5月19日 第一回の遊び隊！火熾し・のこぎり・沢遊び・・・何をするにもドキドキな一日。
6月22日・23日 遊び隊キャンプ：初めての仲間とテント張りからご飯作りまで！終わりの会の時にはすっかり仲良し♪



「見せて」「どうやってやるの?」「教えてあげる!」みんなで火熾し



あたまたに葉っぱ乗っけるだけで、この笑顔♪



みんなのアイデアで、『流し団子!』



チームで遊びの作戦会議中♪ チーム名も考えたよ。



テントの中はこんなににぎやか♪



チームで協力して、ご飯作り★

やまぼうしインプリ発信

本格的に登山を始めてかれこれ50年近くなる。最初は職場の山岳会で先輩に山の楽しさを教えてもらった。白馬岳から前穂までを6区間に分けてタスキをつないだリレー縦走や表・裏銀座、槍沢、前穂からの槍ヶ岳集中登山など50名程の会員による大きな山行が毎年行われていた。



鳥居 建一
(やまぼうしインタープリター)

20歳の時、長野県山岳協会に加盟する社会人山岳会に入会し年間を通して山に行くようになった。この山岳会では近郊の里山から北アルプスのバリエーションルートまで年間を通して活動していたので特に遭難防止とセルフレスキューの講習には力を入れていた。5月の利尻岳遠征では頂上直下でスリップしたがフィックスロープで難を逃れ頂上に立つことができた。ある時は燕岳北方の唐沢岳の岩登り中に数メートル滑落して腰を痛めた仲間の救助に向かい、一晚ビバークして翌日登山口まで1日かけて搬送したこともあった。そんな経験から安全登山には人一倍気をつけている。会のPRと装備品の購入費や遠征費用の捻出を目的に毎年「一般募集登山」と銘打って会員総出で針の木岳や唐松岳あるいは白馬大池などへ120名程をガイドしたこともなつかしく思う。

話は変わるが、ここ数年、東北の鳥海山や秋田駒周辺、更には森吉山、八幡平へと登山やバックカントリースキーに出かける機会が多くなった。上田6時13分発の「あさま500号」に乗り、大宮で「スーパーこまち3号」に乗り換えると9時51分には秋田県の田沢湖駅に到着する。4時間弱なので早くなったものだ。

5月17日、いつものように田沢湖駅に降り立つとI氏が手を振って待っていた。彼の車で満開の桜を見ながら近況報告やスキー談義をしながら山道に入ると月の輪熊に遭遇、バックして脱輪、パンク。熊の見張りをしながらタイヤ交換。こんなハプニングがあったが12時には昨年の倍近い10メートルはある残雪の秋田・岩手両県にまたがる八幡平に到着した。I氏は現在東北の山を中心に登山やテレマークスキーのガイドをしている。そんな彼が樺池でガイドをしていた頃からの付き合いでかれこれ10年近くなる。

この日の板は宅配で送っておいだ2台のうちBCクロカン(クロスカントリースキーにエッジを付け、滑走面をウロコ状に加工したもの)。早速、岩手山や昨年紅葉を満喫した森吉山を遠くに眺めながら源太森方面へフィルムクラストした快適な斜面を滑る。なにしろ板が軽量でウロコ付なのでかなりの斜面でも登り返しは苦にならない。アツと言う間の3時間ツアーだった。彼は明朝3人のクライアントを迎える為一旦下山。私はお気に入りの宿「後生掛け温泉」泊まり。受付で敷布団と毛布それに枕を借りて板張りの床にゴザを敷いたオンドル湯治棟「極楽寮」へ。極楽寮は敷布団がなければ地熱で暑くて座ってられない。源泉かけ流しの濁り湯で汗を流した後は「プシュー」。湯治客の皆さんからの差し入れもあってまさに「極楽極楽」である。



立山

翌日、彼らが到着するまで一人芽吹き始めた樺の原生林を滑りまわる。午後は現地合流組も含め総勢7名、持ち寄ったテレマークスキーやBCクロカン15台を乗り比べるという楽しみツアー。

今日は全員が同じ温泉宿。露天風呂で汗を流した後は宿自慢の山菜料理を肴に、これまた持ち寄った地酒で夜が更けるまでスキー談義は続く。ちなみに私が持参するのはいつも決まって須坂・遠藤酒造の「溪流」。



根子岳

さて、最終日は宿の露天風呂から見えた真っ白な国見岳へシールを付けて2時間の登り。もちろん汗で二日酔いは解消。頂上で昨日の八幡平や秋田駒の眺望を楽しんだあとはシールを剥がし、ザックを置いて広い斜面を自由に滑る。滑っては登り、登っては滑る。

帰りのまばらな林間滑走もこれまたバックカントリーの面白さである。

宿に戻って露天風呂から樺森を眺めると白い斜面に昨日は無かったシュプールが何本も見える。2台のスキーを宅配で送れば後はザック一つ。田沢湖駅で彼と別れ、夕陽に染まった岩手山を車窓に八幡平や樺森のシュプールを思い出しながら缶ビールで一人乾杯。

それにしても彼のガイドは私の期待を十二分に満たしてくれる。私の力量を見極め登山であれテレマークスキーであれ最高のフィールド提供してくれるのである。



国見岳

山の状況は日々変わる。まして雪のフィールドはその日の気温に大きく左右される。雪崩はもちろん雪質の変化は大きなリスクを伴う。彼との会話から下見の重要性が感じ取れる。

何年か前の正月明け、秋田内陸鉄道に板を持ち込んで一時間程移動、リフトの動いていないスキー場で滑ったことがあった。「車で行けば30分程の場所にわざわざ鉄道で時間をかけて」と

疑問に思ったが帰りにはその疑問は払拭されていた。住民挙げてローカル線と村営スキー場を守っているのである。ガイドのあるべき姿の一端を見た旅だった。

「森林インストラクター養成講座を受講したいのですが」「すみません今年は森林インストラクター講座はやらないんです」「そうですか」「インタープリター養成講座があるので受けてみませんか」「どんなことやるんですか」

二年前の2月、根子岳でテレマークスキーを楽しんだ帰り道、思い立ったようにやまぼうしの扉を開けた時の私とすけちゃんとの会話。これがやまぼうしとの出会いである。

以来、やまぼうしの活動に携わって3年、その多くが登山の案内である。身近なフィールドであっても「勝手知ったる」はお客様に失礼でありリスクも伴う。今後一日のガイドが終わるたびいつものように「お客さまは満足したでしょうか」と自問しつつ、できるだけ下見をし、必要があれば現場の状況写真を事前に見ていただくなどして安全かつ楽しい登山ができるよう心がけていきたい。

八幡平から帰って1週間後、妻「少しは休んだらどう」、俺「じっとしていれば死んじやうよ」こんな会話をしながら天気図を眺め畑の野菜も心配になったが残雪の鳥海山へ。夕陽にキラキラ光る日本海に向かって一人BCクロカンサンセットクルーズを楽しんできた。

極楽極楽。



白馬乗鞍

キッズフェスタレポート

6/1（土）春のキッズフェスタ
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立オリンピック記念青少年総合センターにて

数日前からの天気予報では少し不安もありましたが、当日は朝から自然体験活動には絶好の天気となりました。会場セティング・開会式が行われ、いよいよブースごとに体験活動の開始です。

やまぼうし自然学校では、昨秋に引き続きく丸太切り体験を担当しました。私の幼い頃はお手伝いやいたずらの一つでしたが、今のお子さんには、なかなか出来ない体験の様で、全力でノコギリを引いていました。

慣れた手つきのお子さんや、思い通りにいかなくて、いら立つお子さんなどさまざまです。切り終わると、小さな達成感がこちらにも読み取れる表情になります。約 200 名に体験して頂きました。参加してくれたお子さんにとって自然体験も楽しいと思って頂けるきっかけに成ってもらえたらと、私たちスタッフは願っています。



レポート：森田十三蔵（埼玉在住・会員）

森あちよびクラブ

やまぼうし自然学校最年少の未就学児が集まるのが、森あちよびクラブ。お父さんやお母さんと手をつなぎ、森のにおい、風の音、水の感触、いつもと違う世界を楽しみます。大人は1日たっぷり我が子と向き合い、成長や反応を確認。自分もゆったり森を楽しむ。そんな森での過ごし方を提案したいと考えています。

5月19日第1回目は「わくわく森探検&草団子づくり」桑田の森の♪はるの小川は♪へ行ってみました。最初はおそろおそろの足取りも、すぐに慣れて長靴に水が入ってもへっちゃら。びちゃびちゃするのがやめられません！大人も昔の遊びの感覚を取り戻しながら子どもに遊びを伝え、子どもはお父さんもっとやって～と期待の眼差し。



お弁当の後は、おやつ作り。お料理はお母さんがやっているのをいつも見ていて、やる気満々！小さい手でお団子の粉を上手にこねこねして、丸めたら熱くないようにお湯の中へポト～ンしようね。みんなも理解して危なく無いようにできました。いつもは苦手なおもちも、自分で作ったらおいしく食べられました。今日の成長、うれしいですね。



保母 裕美

新職員、自己紹介します

●後藤かおり（ごとう かおり、27歳 静岡県出身）

みなさん、こんにちは。

私は、去年、一年間だけ高校に勤めていた。教員免許は持っていないけれど、助手として働いていた。はじめは、生徒と話すだけで緊張したけれど、毎日子供たちと接する中で、子供たちのちょっとした変化や成長がなにより嬉しかったし、私自身の行動の原動力になった。



高校で働くことができるのは一年間だけだった。でも「これからも目の前の人の喜びや成長の手助けをしたい」そう思って、インターネットで働ける場所を探した。

高校の先生が「自然学校というところがあるよ」と教えてくれた。「静岡 自然学校」「愛知 自然学校」「神奈川 自然学校」「長野 自然学校」・・・こんな感じで検索をし、静岡に隣接する県の自然学校を探してみた。

そうしたら、やまぼうし自然学校で、スタッフを募集していたのだった。これが私とやまぼうし自然学校との出会いです。

今こうやって私がここにいるのは、去年高校で勤めた一年間があるからだ。色んなことが重なって、現在があるのかと思うと、縁って不思議だなあと思う。

やまぼうし自然学校では、どんな人達、そして自然に出会うのだろう。焦らず、ゆっくり、人と自然と関わっていききたい。

みなさん、よろしくお願ひします。

【東京支部】森を楽しむ講座 チャレンジ/養成コース

「森を楽しむ講座」森林インストラクターチャレンジコース第7-8回とやまぼうしインタープリター養成コース第4-5回講座を、6/1-2に菅平高原で開催しました。

今回は初めての宿泊を伴う長野県での講座で、1日目は菅平高原での野鳥観察や上田地域の神社で宮司をされている小泉さん（女性）の「神道、神さまと自然」についての講義、2日目は「森林と動物と人のかかわり」について長野県林業総合センターの岡田さんの講義等を実施しました。

残念ながら今回は欠席が多く6名の受講者でしたが、自然体験の森見学や、カントリーフエスタでの昼食、ダボスの丘リゾート宿泊・交流会等々、首都圏の受講生の皆さんは菅平の自然を満喫しました。勉強のほうも頑張りましょう！



丹野雅之



クラフト作品「輪切名札」



「神道、神さまと自然」について小泉さんの講義



菅平高原での野鳥観察

【東京支部】森を楽しむ講座！都内森めぐりコース

新設して3年目となる今年は、前年からの継続受講者と、東京支部実施のイベントに参加いただいた方、神奈川シニア大学の修了生、新規の方を合わせ45名でスタートしました。

コースは継続受講の方を配慮し、フィールド変更したり、同じフィールドでも季節を入れ替えたり、コース順路を変えてマンネリにならないように設定しました。



湯浅泰博

また今年は原点にもどり、〈森に親しむ〉ということで、森の楽しみ方や五感を使って森を感じることに重点を置きます。



4月は目黒の自然教育園で実施しました。関東南部の常緑樹と森の遷移や、人間に役に立つキハダやムクロジなど樹木について知り、森の生態系や食物連鎖についても学んでいただきました。イチリンソウ、ニリンソウ、ムサシアブミ、ヤマブキソウ、エビネ、ウワミスザクラなど感動する春の花もたくさん見ることができました。

5月は新宿御苑で実施しました。ハンカチノキの花は終わっていましたが、ラクウショウの気根をみて根の働きを知ったり、モミジバズカケの大木の樹肌に触れて木のぬくもりを感じたり、葉に触れて柔らかいや硬い感触を楽しんだり、ニフトコの葉の香りをかいだり、キイチゴやスタジイやペカンの実を味わうなど、五感ふんだんに使って森を感じていただきました。手に取って間近に見ることができるユリノキの花やホウノキの大きな花と香りを楽しんだりしました。

6月は新規フィールド、〈林試の森公園〉を予定しています。



【長野校】やまぼうしインタープリター養成講座

『全6回 おとなのための実践講座』の第1回「やまぼうし流インタープリテーションを学ぶ」を4月24日と28日に開催しました。

午前中は室内でやまぼうし自然学校の活動理念や活動内容の説明や、昨年の受講生で現在、インタープリターとして活躍いただいている先輩の体験談もありました。午後は実際に自然体験プログラムを体験しながら、指導者として注意すべき点などについての実技でした。「ネームバッジ作り」「窯ピザ作り」「笹茶作り」を行いました。どの作業も指導者側目線を考えながら、かつ自らが楽しむ姿勢で楽しく活動をしていました。



今回は6月30日又は7月3日第2回「キャンプシーズン直前！目指せキャンプの達人」テントのたて方やロープワーク、野外調理でおいしいランチをいただきます。9月15日又は9月18日第3回「プログラムの実践力を身につける！」プログラムの組み立てと実践、使えるアイスブレイクゲームの予定です。



加々美 貴代